



八丈島のキンメダイ漁、過去最高の水揚げを記録！

漁獲量の推移

八丈島におけるキンメダイの水揚げが、過去最高を記録しました。これまでの最高は、平成 21 年の 360 トンでしたが、本年は既にその数値を超え、12 月 14 日現在、426 トンとなっています（図 1）。漁場における魚群密度を示す CPUE（1 航海当り漁獲量）も過去最高を記録しています。

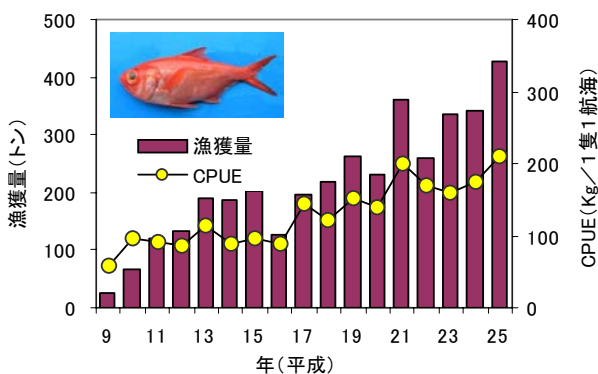


図 1 八丈島におけるキンメダイの漁獲量と CPUE

黒潮流路と好漁の関係について

好漁の要因を検討するため、同じく好漁だった平成 21 年と本年の黒潮流路について検討しました。両年とも前年の秋から伊豆半島沖で、黒潮が北緯 32 度付近まで南下・蛇行し、その後 4 月にかけて北緯 34 度付近まで北上しています。両年とも流路は 5 月に再度南下し、その後再び北上するなど、黒潮の動きが激しい年でした。この間、流路の南下期より、北上期に好漁が生じ易い傾向がみられました（図 2）。標識放流の結果から、キンメダイは沿岸漁場から沖合漁場に向け、大規模な南下移動をすることが知られております。しかし、遊泳力がそれほどないと思われるキンメダイが、どのようにして黒潮の南側に移

動するのか、大きな謎でした。今回のデータから、黒潮流路が大きく蛇行・南下した際、その内側にできる反時計回りの渦（図 3）を利用して魚群が移動し、黒潮の北上期に新たな漁場に着底していることが推測されます。魚群の移動実態については今後、標識放流の充実も含め、種々の手法を用いて検証する予定です。

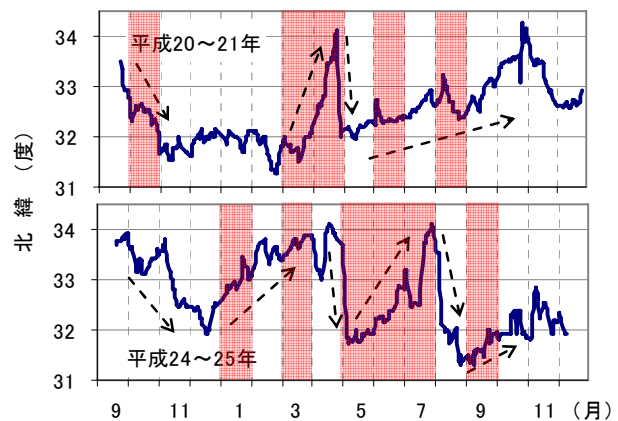


図 2 黒潮流路の位置とキンメダイ漁の関係（流路位置は、海上保安庁 HP の「黒潮詳細情報」の数値データを使用）折れ線は、東経 139 度線（伊豆半島沖）を黒潮流路が横切る位置（緯度）を示す。朱色は月間 CPUE が各月の平均値より 30kg 以上高い月を示す。

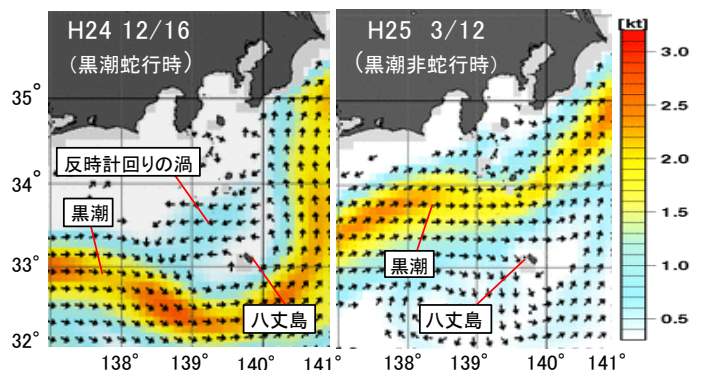


図 3 黒潮と黒潮内側域の流れ（気象庁 HP より引用、一部改変。右側のカラースケールが流速を示す）黒潮の南下・蛇行時には、その内側域に反時計回りの渦が生じることが多い。